



大阪公立大学出版会

No.46

## NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Metropolitan University Press (OMUP)

## 目次

・特別寄稿	辻 洋 … 1	・自著を語る (44)「大学研究者へのワーク・ライフ・バランス支援」	巽 真理子 … 3
・第10回OMUP総会報告	…………… 2	・新刊書の紹介	…………… 4
・自著を語る (43)「地球学実験」	桑原 希世子 … 2	・編集後記/大阪公立大学出版会事務局より	…………… 4

## 特別寄稿

## ChatGPTを使ってみて思うこと



大阪府立大学名誉教授  
(前大阪府立大学理事長・学長)  
辻 洋

大学に赴任する前に、民間企業で情報システムの研究に従事していた。当時、特許や新聞記事の電子化が始まり、自然言語処理技術により人手の手間を減らすことに取り組んでいた。た

例えば、申請された特許のテーマ分類・類似性判定や新聞記事の自動要約・重要性判定である。課題が多いので研究成果の論文は書けるが事業としての実用化はなかなか難しいテーマであった。

ところが、近年ChatGPTと呼ばれる生成AIが無料で公開され、誰もが人工知能を手軽に利用できるようになった。その能力を試すために、以前OMUPのニュースレターに寄稿した「メディアと出版」と題する1300字の記事（QRコードで参照可能）を200字程度に自動要約させてみたところ、「この文章は、情報伝達の歴史に触れ、のろしや壁画から始まり、紙の発明とページ化による情報整理、電子文書やネット検索技術の登場による情報伝達の進化を紹介しています。情報伝達は人間の特権であり、紙は耐久性と可搬性に優れています。紙による出版は異なる時代の人々に知識を伝える手段であり、研究者にとって専門図書を出版する環境は重要です。」と出力された。その精度に驚く。また、英語に翻訳させてみるとその能力も高い水準だった。



ChatGPTは既存の電子文書を読み込んで学習しており、時間とともに指数関数的なスピードで能力を上げていき、近い将来大学入試問題も解くのではないかとされている。文字認識のツールなどと組み合わせると既に夏休みの宿題である読書感想文を書けるのではないかと思っていたところ、劇作家の三谷幸喜さんが興味深い話をされていた。

三谷さんによると、感想文の書き方として①あらすじは不要、②「どう思ったか？」ではなく「どう変わったか？」が大切、ということだ。なるほどと頷くとともにChatGPTでは読者自身の変化を書く感想文執筆は無理だと思った。逆に著者から見ると、本を書くことは読者にストーリーを提供するだけでなく意識改革・行動変容を促す可能性があることを示唆している。読者の人生の阿弥陀籤に横棒を与えるかもしれない。改めて本を読むこととともに書くことの大切さを感じた一瞬でもある。

大阪公立大学には出版会がある。営利業者ではなく独立したNPOで、退職者を含む教職員ボランティアが運営している。世界の一流大学にはOxford University Pressなどその名称を冠とした出版会がある。ぜひOsaka Metropolitan Universityでも大切にしたい。そのためにも学生や研究者を中心とする読者やコミュニティが変化する一石を投じるといふ意気込みで出版を考えていただきたい。単著でも共著でも歓迎なので、周囲の方にもお勧めいただければ幸いである。

たとえば、目から鱗が落ちるような共通教育の教科書、受験生や入学直後の学生を専門分野に誘うための入門書、大学の力を知らしめる総合知の啓発書、他の大学が参考にできる特色あるFD・SD活動の記録、大阪を盛り上げる地域創造・観光・歴史書、人文社会科学系の学生による博士論文、健康寿命を伸ばすチップス集など幅広く提案いただきたい。いずれChatGPTはこれらの本の知も活用するであろう。情報社会の急速な進展を見ながらこんなことを思っている。(注：この記事の推敲にChatGPTを利用した)

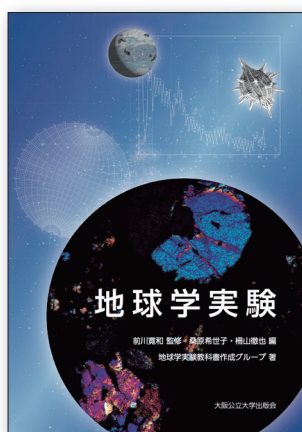
## 第10回OMUP総会報告

令和5年6月17日（土）午前11時から午後1時まで、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスB14号棟2階自己研修室において、第18回NPO法人大阪公立大学出版会（OMUP）の総会が開催された。総会成立の確認後、八木孝司理事長を議長に選出し、さらに大塚耕司常務理事と山東功常務理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。第1号議案「令和4年度事業報告」では、令和4年度より大阪公立大学共同出版会（Osaka Municipal Universities Press）は、大阪公立大学出版会（Osaka Metropolitan University Press: 略称OMUP）に名称を変更し、これを機に大阪公立大学と包括連携協定を締結したこと、昨年刊行された図書が14冊であったこと、「大阪公立大学教員が選んだ新入生に薦める100冊の本」を発行したこと、OMUPニュースレターを2回（No. 44、45）発行したことが報告され、満場一致で承認された。第2号議案「令和4年度活動計算書」は、表に示す通りである。監事より「適法かつ正確である」として署名捺印したことが報告され、満場一致で承認された。第3号議案「役員等について」では、酒井隆史、大久保正明、石井小巻を新たに理事に選任すること、足立泰二、小股憲明、三田朝義に顧問を委嘱することが提案され、満場一致で承認された。第4号議案「業務契約」では、杉本公認会計士事務所との顧問契約、事務局業務に関して湯井順子、西本佳枝との雇用契約、出版物編集業務について川上直子、中村奈々、田野典子、谷角素彦と業務委託契約を継続することが提案され、満場一致で承認された。第5号議案「定款の改定」では、第14条2「理事長及び常務理事は、理事の互選により定める」を「理事長及び常務理事は、理事会において決定する」と修正すること、第16条を「役員は、選任された総会から2年後の通常総会までとする」こと、第19条を「役員は、総会の議決を経て理事総数の3分の1以下の範囲で、報酬を受けられることができる」とすること、時代の流れに合わせて、「ファックス」などの文言を「電磁的方法」に換えること、第37条として「理事会の表決権等」、第38条として「理事会の議事録」を加え、以下条数を2つずつずらすこと、「収入」という文言を「収益」、「支出」という文言を「費用」と換えること、新・50条（旧・第48条）を「この定款の変更は、総会に出席した正会員の4分の3以上の議決を経なければならない」に修正することなどが提案され、満場一致で承認された。第6号議案「公立大学法人大阪との包括協定にもとづく出版連携協議会について」では「大阪公立大学出版連携協議会設置要項（案）」第2条「設置及び目的」を「この協議会は、「公立大学法人大阪と特定非営利活動法人大阪公立大学出版会の包括連携に関する協定書」第2条に基づき、大阪公立大学及び大阪公立大学工業高等専門学校（以下、「大学等」という）と大阪公立大学出版会の連携・推進を図ることを目的として設置する」と修正することが提案され、満場一致で承認された。第7号議案「令和5年度事業計画」では、受託出版事業として研究報告書、博士論文、研究叢書、退職記念論文集、大学史・研究室史・クラブ史などの出版を働きかけることのほか、出版物の受託販売事業、OMUPブックフェアの開催、出版目録の作成と配布、ニュースレターの発行、「大阪公立大学教員が選んだ新入生に薦める100冊の本」の発行、ホームページおよびフェイスブックの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することが提案され、満場一致で承認された。第8号議案「令和5年度活動予算」では、表に示すような予算が提案され、満場一致で承認された。（常務理事 中村 治）

## 令和4年度事業決算および令和5年度事業予算書 (単位:円)

科 目	R4 決算額	R5 予算額
事業収入		
書籍売上	4,651,199	4,700,000
出版収入	5,035,766	5,690,000
著者負担 大学負担・ 出版助成等	3,595,535	4,400,000
寄付金収入	209,000	0
入会金収入	140,000	100,000
その他の収入		
受取利息	35	35
雑収入	1,002,133	0
当期収入合計	14,633,668	14,890,035
売上原価		
期首商品棚卸	1,385,960	1,785,378
製作費	6,391,038	6,500,000
運送・発送費	285,370	500,000
編集デザイン料	305,300	500,000
期末商品棚卸	-1,785,378	-1,600,000
管理費		
雑給	3,343,380	3,600,000
法定福利費	415,348	450,000
福利厚生費	25,490	50,000
業務委託費	328,800	330,000
旅費交通費	439,390	450,000
通信費	89,100	90,000
会議費	14,247	15,000
地代家賃	0	0
水道光熱費	53,873	55,000
保険料	113,900	120,000
著者精算	557,446	1,450,000
消耗品費	110,255	100,000
事務用品費	55,885	70,000
租税公課	141,750	100,000
広告宣伝	0	10,000
支払手数料	63,527	70,000
諸会費	9,900	10,000
法人税等	229,404	230,000
当期支出合計	12,646,006	14,885,378
当期収支差額	1,987,662	4,657
前期繰越収支差額	4,802,070	6,789,732
次期繰越収支差額	6,789,732	6,794,389

## 自著を語る (43)



### 地球学実験

著者：地球学実験教科書作成グループ

(監修：前川 寛和  
編集：桑原 希世子・柵山 徹也)

B5判、並製本、179頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-46-1 C3044

地球学（地学・地球科学）は、地球の成り立ち・生き立ちを知る学問である。地球をまるごと理解でき、地球環境問題・防災・資源開発などに役立てられ、重要である。とはいえ大学で地学実験を受講する学生は少なく、地学実験の出版物はわずかであった。私は複数の大学で地学実験を受け持ってきた中で、それぞれ興味深い実験プログラムを知った。しかしその内容を誰もが利用できる教材として残せていないのを残念に思っていた。幸い2022年に大阪公立大学国際機関教育機構のプロジェクト経費を受けられ、実験書作成をスタートできた。多様な実験プログラムを集めるため、大阪公立大学の地球学実験の担当教員をはじめ、関西の大学

や高校の教員に打診し執筆協力いただいた。そして大阪府立大学名誉教授の前川寛和先生に監修をお願いした。

本書の内容は次のとおり。第1部に実験・実習34テーマを収録、固体地球分野を中心に、地形図・地質図・偏光顕微鏡・化石・ステレオ投影等を含んでいる。チョコレート溶岩流や牛乳を使ったカルマン渦列は、すぐにでも作ってみたいくなるのではないだろうか。第2部は、大阪近辺の12地点を紹介し、地質や地形を観察できるガイドとなっている。読み物としてコラム5記事も収録している。QRコードをつけて更なる情報にアクセスできるようにした。学生向けの実験書ではあるが、教員向けの実験素材集の価値もある。

2023年前期の大阪公立大学「地球学実験C」では、初めてこの本を使用した。学生に購入は求めず、実験室に人数分を置き使用することにした。前期終了後の学生アンケートの一部を紹介する。

- ・購入せずに貸し出しスタイルがとても良かったです。教科書を忘れることもなく荷物も少なくなったので良かったです。

です。

- ・内容と授業の関連がわかりやすく読みやすい。地学の実践的な教科書は手元に置く機会がないので買う形式でも構わない。
- ・教科書がカラーでわかりやすかった。
- ・パッと見た時に、基本的に全部文章なので、どこの項目かわかりづらかった。

——おっと、ここで私の編集者としての反省点を白状する。ページ数削減のため当初の原稿から空白行をかなり減らしたのである。結果、余白が少なく文字の多いページ構成になってしまった。わかりやすさのためには、紙面にも経費にも余裕は必要なのです。

教える側としては、実験書があることで予習復習の指示がしやすくなり、また1冊の本としたことで、実験テーマ間の繋がりがわかりやすくなったと思う。今後は、電子書籍化される予定である。

(大阪公立大学 准教授 桑原 希世子)

## 自著を語る (44)



### 大学研究者への ワーク・ライフ・ バランス支援

—女性支援から  
ケア支援へ—

著者：巽 真理子

A5判、並製本、78頁

880円（本体800円＋税）

978-4-909933-48-5 C0030

本書は社会学およびジェンダー論の視点から、日本の大学における研究者のワーク・ライフ・バランス支援と、それを支援するコーディネーターという職について議論している。科研費の研究成果を、本書として出版したいと思ったきっかけは、筆者が10年以上、女性研究者支援事業（以下、「支援事業」）にかかわってきた大阪府立大学が、大阪市立大学と統合することであった。

支援事業は、実施する大学によって位置づけが大きく変わる。本書でも紹介したように、大阪府立大学は男女共同参画推進ではなく、科学技術人材育成（研究者育成）として支援事業を行ってきた。大学にとって研究者育成は使命であり、決してなくならない。そのため、筆者はコーディネーターとして、「女性活躍＝よいこと」以上の意味一本学にとって絶対に必要なこと—という自信をもって、支援事業を推進してこられた。それが、違う位置づけをする大学と、新しい大阪公立大学として支援事業を構築していくのは、正直、不安

だった。実際、統合前に定期的に開催した2大学の支援事業関係者の打合せでは、同じ言葉が違う事業を指している場合も多く、文化の違いを肌で感じた。それは支援事業だけでなく、コーディネーターのあり方も同様である。

支援事業を現場で推進するコーディネーターは、URA同様、教員と職員の間にいる「第三の職」であり、本書まで学術的に議論されたことは管見の限りなかった。コーディネーターは、国（文部科学省の補助事業）と大学からの支援事業への要望・期待と、支援される研究者個人のニーズ（切実な訴え）に挟まれながら、自身の立場や責任・役割を模索し続けている。大学にいても1人か2人程度と超少数派で、その職位は大学によってバラバラである。

筆者も最初は職員として雇用され、後に特任教員となり、そして本書の出版後（2023年～）は再び職員となった。仕事内容はそれほど変わらないのに、同じ大学で職位がこれほど変わるの珍しいだろう。コーディネーターの仕事内容としては、職員として働く方が実は都合がいい。だが、コーディネーター自身の研究者としての専門知識と経験が、色々な面で支援事業を支えている。現在、筆者はコーディネーターとしては職員、研究者としては客員准教授と2つの身分を使い分けながら、「コーディネーターの仕事」と「研究者としての自分」のバランスを保っている。

統合して2年目の今、大阪府立大学で支援事業のコーディネーターとして培ってきたことは、本書での議論を経て、大阪公立大学の支援事業と筆者自身の働き方に活かしている。日本の政策や他大学の支援事業にも活かせるよう、これからも模索し続けていきたい。

(大阪公立大学 客員准教授 巽 真理子)

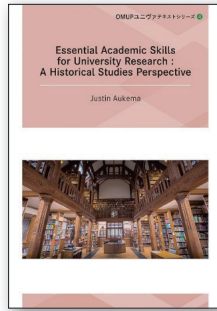
## 新刊書の紹介



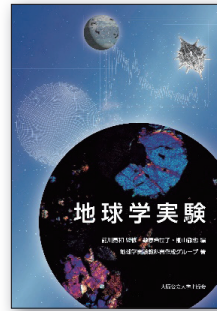
コンテンツの、コンテンツによる、コンテンツのためのマーケティング  
—映画・アニメ・キャラクター分析事例—  
著者：辻本 法子・田口 順等・野澤 智行・荒木 長照  
46判、並製本、188頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-43-0 C3063



OMUPユニヴァーテキストシリーズ④  
調理実習 一生涯にわたり健康的な食生活を送るために—  
著者：佐藤 典子  
A5判、並製本、74頁  
1,100円（本体1,000円+税）  
978-4-4909933-47-8 C0040



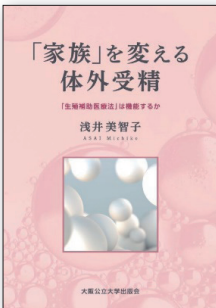
OMUPユニヴァーテキストシリーズ④  
Essential Academic Skills for University Research: A Historical Studies Perspective  
著者：Justin Aukema  
A5判、並製本、172頁  
1,650円（本体1,500円+税）  
978-4-909933-44-7 C1082



地球学実験  
著者：地球学実験教科書作成グループ（監修：前川 寛和 編集：桑原 希世子・榎山 徹也）  
B5判、並製本、179頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-46-1 C3044



OMUPブックレット No.68  
大学研究者へのワーク・ライフ・バランス支援  
—女性支援からケア支援へ—  
著者：巽 真理子  
A5判、並製本、78頁  
880円（本体800円+税）  
978-4-909933-48-5 C0030



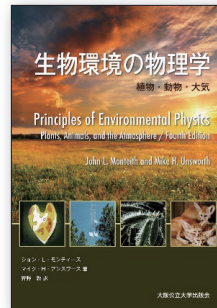
「家族」を変える体外受精 「生殖補助医療法」は機能するの  
著者：浅井 美智子  
A5判、並製本、122頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-49-2 C0036



高齢者の発達臨床心理学 ロールシャッハに映し出される認知症の世界  
著者：篠田 美紀  
A5判、上製本、282頁  
2,750円（本体2,500円+税）  
978-4-909933-45-4 C3011



OMUPユニヴァーテキストシリーズ⑥  
保育学基礎  
著者：吉田 直哉  
A5判、並製本、182頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-51-5 C3037



生物環境の物理学 植物・動物・大気  
著者：ジョン・L・モンティース、マイク・H・アンズワース  
翻訳：狩野 敦  
B5判、並製本、246頁  
8,800円（本体8,000円+税）  
978-4-909933-50-8 C3045



OMUPユニヴァーテキストシリーズ②  
国際開発ソーシャルワーク入門 改訂版  
著者：東田 全央  
A5判、並製本、146頁  
1,320円（本体1,200円+税）  
978-4-909933-53-9 C3036



伊東満所よ 甦れ! 歴史研究の集大成として  
著者：竹下 勇  
A5判、並製本、80頁  
1,100円（本体1,000円+税）  
978-4-909933-54-6 C1321



種を育てて種を育む 一植物品種改良とはなにか—改訂版  
著者：加藤 恒雄  
A5判、並製本、128頁  
1,650円（本体1,500円+税）  
978-4-909933-52-2 C0061



土質力学 I  
著者：大島 昭彦  
B5判、並製本、132頁  
2,200円（本体2,000円+税）  
978-4-909933-57-7 C3051

## 大阪公立大学出版会事務局より

### ● 特別出版相談会【要予約】

11月1日(水)、12月6日(水)、1月10日(水)  
毎月第1水曜日の午前11時～午後2時の間、  
弊会編集長との出版相談会を開催します。なお、  
この日は予約制となっておりますので、事前に  
連絡をお願いいたします。(この日時に不都合  
がある場合でも対応は可能ですので、ご連絡く  
ださい。)

連絡先 TEL 072-251-6533

E-mail omup@omup.sakura.ne.jp

### ● 寄付について

金井一弘編集長から、20万円の寄付を拝受い  
たしました。弊会の運営に大いに役立たせてい  
たきます。(理事長 八木 孝司)

## 編集後記

最近、弊会へ教科書の出版依頼が増加してきております。(「新刊書の紹介」をご覧ください)。シラバスに沿った独自の教科書があれば、教員・学生ともに授業に臨みやすいのかもしれませんが。なかもずキャンパスにOMUPのオフィスがありますので、書籍の出版にご興味ある方はいつでも気軽にお立ち寄りください。(事務局 湯井 順子)